

2003.8. 10

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 34  
( N P O 法人近畿水の塾ホームページ )

////////////////////////////////////  
高い空、セミの声・・・夏真っ盛り！  
////////////////////////////////////

### 【河川塾NEWS】

梅雨明けがあれほど待ち遠しかったのに、いざ夏真っ盛りになると元気なセミの声とは裏腹に、こちらはもう夏バテしてしまいそうな毎日です。

みなさん、川遊びや水との関わりを楽しんで過ごしていらっしゃいますか？  
さて、8 / 2・3両日に開催されました「大和川・淀川流域連携交流会2003」  
2日目のメインイベント(?) E ボートレースに、N P O 法人近畿水の塾も参加してきました。

さすが選り抜きの(!?) 10人のメンバーが集まっただけに、予選では本選出場ギリギリの辛くも5位。

しかし、本選ではなんと総合2位に入賞してしまい、一同ビックリ!! すごい!!  
無欲でのぞんだ今回が2位なら、次は絶対1位を目指すぞ!!・・・そんなことで近畿水の塾ボート部、発足です。(部員大々募集中!!)

当日のみなさんのあつ～い応援、本当にありがとうございました!

これからもよろしくお願ひしまーす!



「大和川・淀川流域連携交流会 2003」1 日目  
パネルディスカッション



「大和川・淀川流域連携交流会 2003」2 日目  
E ボートレース



NPO 法人近畿水の塾艇と仲間たち



近畿水の塾 堂々の第2位！

## 【前回河川塾の内容】

「第31回澤井河川塾」

日時：7月16日(水) 19:00～

場所：センター（いつもの6F会議室）

内 容： 「近木川 自然再生事業」

大阪府貝塚市近木川での自然再生事業に向けての課題・取り組み方

・・・近畿水の塾HP > 活動報告 > 河川塾通信

<http://www.geocities.jp/mizunojuku/katudouhoukoku/katudouhoukokuTop.html>

澤井河川塾通信 Vol.034 添付資料の Pdf. ファイルをご覧ください。

[記録担当：摂南大学 小川&富田]

## 【次回の予告】

次回、「澤井河川塾」のご案内です。

**第32回「澤井河川塾」**

**日 時： 8月20日(水) 19:00～21:00**

**・・・毎月、第3水曜日の開催です！！**

集 合 : センター (いつもの 6 F 会議室)

内 容 : 「近木川 自然再生事業」  
大阪府貝塚市近木川での自然再生事業に向けての課題・取組み方

参加申込 : 近畿水の塾 事務局 (FAX:0725-53-5325)

E-mail: [mizunojuku@yahoo.co.jp](mailto:mizunojuku@yahoo.co.jp) まで 8/19(火)締切

### 【マイリバー／川びと】第 3 回

#### マイリバー紹介

思いつくまま信濃川の紹介をします。

信濃川河川事務所 森川一郎

#### 1 . 三尺玉

長岡の夏といえば花火。8月2日3日に三尺玉(30号、直径90cm、重さ約300kg)の大花火が上がる。淀川の花火大会は最大7号(直径21cm、3kg)くらい。現在では火薬取締法で火薬量が80kgに制限されているが、その前に三尺五寸玉(火薬量120kg)を上げ、日本一の大火火と称している。三尺玉ともなると600m上空で直径650mの花火が開く。市街地で保安距離の直径1200mを確保し、川の中に巨大な打ち揚げ筒を設置できるころはそうないと思う。19万都市長岡に二日で80万人の見物客が来る花火大会が出来るのも、川幅800mを超え、州の発達した信濃川の包容力おかげ。

なお、隣の小千谷市片貝の花火は四尺玉(直径120cm)でギネスブックにも載った世界一。日本一と世界一があるというのは不思議ではある。片貝では神社の祭りに村の人が「祝還暦」「祝成人」「孫誕生」等で花火を奉納する。同級生が金を出し合ってスターマインを上げたりするらしい。元々内輪の花火なので、NHKの朝ドラ「こころ」であまり観光客が押し寄せると困るかも。

#### 2 . オジロワシ

信濃川には毎冬オジロワシ(天然記念物)のつがい越冬のため飛来する。オジロワシはつがい越冬行動を共にし、その関係が一生維持されるらしい。長岡市街地あたりの信濃川は銃猟禁止区域が設定されているので、冬は多くの水鳥が来る。それを狙って来るのかと思いきや、長年調査されてる横山さんによると85%は魚を食べているらしい。鳥も魚

も豊かな冬の信濃川の象徴がオジロワシかもしれない。

しかし、困ったことにオジロワシがねぐらにする川の中の林はニセアカシア、オニグルミ、シロヤナギなどが高木化し森のようになってしまっている。オジロワシは困らないかもしれないが、洪水が流れない。元々長岡あたりの信濃川は、与謝野晶子が「あまたある州に一つづつ水色の越の山乗る信濃川かな」と詠んだように、複列砂州の発達した川。水路が蛇行し融雪出水でも河岸が大きく削られるため改修で低水路を固定化してきた。このため高水敷が陸化し樹林化が進んでしまった。信濃川本来の自然は何か、オジロワシに代表される鳥たちにどのような環境がいいか、どのような環境が残せるか議論が必要である。

### 3．長さ日本一 367 km ?

信濃川といえば、ご存知、長さ日本一 367km。年間総流出量 159 億 m<sup>3</sup> これも日本一。豪雪地帯ゆえに水量が多く、また新潟と長野の県境付近は河川勾配が急なため、東京電力と JR 東日本により大規模な水力発電が行われている。山の手線や新幹線など JR 東日本の使用電力のなんと約 1/4 が信濃川の水力発電。私も長岡に行くまで知らなかったが、ほとんどの東京の人は信濃川の水で山の手線が動いているとは知らないに違いない。

この発電のため、長野県の栄村から新潟県の小千谷市までの 63.5km が普段は水のほとんど無い減水区間。地元の人いわく、「367km から 63.5km 引いたら長さ日本一では無い。」水力発電を抑えればその分火力発電が増えるので、信濃川の水環境と CO<sub>2</sub> の削減をどうバランスさせるかなどと考えると難しい問題ではある。

しかし、水が少ないため夏場の水温が 30 度を超え、冷水性の魚が住めない状態では信濃川の包容力を超えていると言わざるを得ない。現在、水温上昇期とサケの遡上期に最大約 20m<sup>3</sup>/s の試験放流を行い、必要流量を見極めようとしているところである。

### 4．淀川のおかげ

東洋のパナマ運河と言われた大河津分水は越後平野の守り神。明治 42 年に本格着工し、大正 11 年に通水、昭和 2 年の自在堰陥没事故を受けた補修工事を経て昭和 6 年にほぼ現在の姿となった。堰によって水をコントロールし放水路をつくる技術は淀川で確立。そのおかげで大河津分水も可能となったといえる。淀川放水路で使われた機械も大河津分水に来たらしい。

淀川の長柄可動堰と毛馬洗堰は淀川大堰と毛馬水門へとかなり以前に姿を変えているが、大河津分水では洗堰の改築を終え、完成後 72 年を越えた可動堰をこれから改築しようとしているところ。青山士が補修工事の碑文に書いた「人類ノ為メ国ノ為メ」「万象二天意ヲ覚ル者八幸ナリ」を今一度噛み締めながら新たな大河津分水の姿を求めていこうと思う。

さあ、今回のリレーエッセイは誰につながるのでしょうか。どうぞお楽しみに。

## 【川の情報ボックス】

### イベント報告

#### 第6回「川の日」ワークショップ みんなに愛される“いい川” “いい川づくり” 公開選考会

**趣 旨** 「“いい川”とは何だろう」-「川の日」ワークショップは、それを問いかけ、自由で柔らかにその答えを探っていくための公開選考会という方式のワークショップです。

7月7日の「川の日」を記念した市民実行委員会主催の大会として1998年にスタートして以来、毎回、全国から70件以上の「これぞ“いい川” “いい川づくり”」という応募があり、地域の水辺を愛し、育み、取り組む400～500人が一堂に会する催しとなっています。この6回までの開催で、応募件数は462件、延べ参加人数は約2500人以上となっています。

第6回を迎えた今年は、国内から74件の個人、団体の応募があり（うち新規の応募者55件）、国外からは韓国の2団体が発表され、500名近くの参加者で会場は熱気ムンムンでした。

近畿水の塾も福廣理事長をはじめ、「川の日」ワークショップおなじみのメンバーが実行委員として参加しました。

**日 程** 平成15年7月12日（土）、13日（日）

**場 所** 一次選考～二次選考：国立オリンピック記念青少年総合センター  
三次選考・表彰式：明治神宮参集殿

### 内 容

1日目（7月12日（土））

一次選考：10グループに分かれてのテーブル選考。

発表は1件に付3分（アピール方法は自由）。

各テーブルの議論で“いい川” “いい川づくり”の視点を発見し、

二次選考に進む推薦2件（全体で20件）を選定します。

交流懇親会：2日目に向けてのアピールの場でもあり、

今年も300名以上が参加する大交流会となりました。

2日目（7月13日（日））

復活選考：一次選考で惜しくも選外となったものの中から、キラリと光る“いい川” “いい川づくり”の評価の視点をもつものをフォローアップするものです。会場に一斉展示されたパネルから全体選考員の投票により6件が二次選考の対象として追加されました。

二次選考：全体会場での選考会。

対象となった全26件が続けて発表を行います。

発表時間は一次と同じく発表のみ3分間。

発表後、総合コーディネーターの進行のもと、6名の全体選考員による討論、投票により三次選考の討論の対象14件が選定されました。

三次選考(公開討論会)：午後、会場を明治神宮内の参集殿に移して行われました。

対象14件を中心にグランプリ他入賞の最終選考を通じたまとめの討論会。

表彰式：各賞の発表とともに今回のワークショップの成果を称えあいます。

グランプリ以下、入賞者には“いい川”“いい川づくり”のキーワードをちりばめた賞名が授与されました。



二次選考の様子



パネル展示



三次選考の様子



表彰及び実行委員長挨拶

## 第6回「川の日」ワークショップ 入賞一覧

---

### グランプリ

- 縫ノ池 / 縫ノ池（ぬいのいけ）湧水会 「40年ぶりの湧き水を守ろう」  
<地域の水の文化を見守りつづけた弁天様とともに40年ぶりに生命をよみがえらせたで賞>
- 矢田川・庄内川 / [だれでもばんぱく協会](#) 「エコストック 2003 on 水辺」  
<インスタレーションの束の間のカタチづくりが海上の森と藤前干潟を結びとともに幅広い人々のキモチをつなぐで賞>
- 

### 準グランプリ

- 矢作川・飯野川 / [豊田市立西広瀬小学校](#) 「矢作川・飯野川水質汚濁調査」  
<1万日の科学的観察は地域を変え子どもを育む物語をつむぎだしたで賞>
- 横瀬川 / 金丸建設株式会社 「横瀬川河川改修工事に伴う環境保全」  
<ボクメツ集団ではない、創造集団であることと環境づくりをビジネスになることを見事に示したで賞>
- 川辺川・球磨川 / [川辺川を守りたい女性たちの会](#) 「尺鮎トラスト」  
<アユをおいしく食べながら川を守る活動の強い訴えはまるでうたのように心に響くで賞>
- 

### 入賞

- 帷子川 / 帷子ウォッチンググループ 「発見 帷子川」  
<子供と行政の顔が見える関係づくりをタマちゃんもみていたで賞>
- 上林川 / [京都府綾部市立上林中学校](#) 「京のエコスクール」の取組  
<映画づくりから頭巾山での環境学習への旅をずっと続けるで賞>
- 鴻沼川・高沼用水流域 / [埼玉県立いずみ高校生物部](#) 「埼玉県立いずみ高校、こうぬま・水と緑を楽しむ会」  
<生きものを探して遊びたくなる懐かしさいっぱい風景創造で賞>
- 倉真川 / 倉真地区まちづくり委員会 「二級河川倉真川における環境整備活動」  
<「子どもたちに嘘をつかない」ホンモノの川ブシンを住民自身で実現したで賞>
- 芹川 / 芹川を美しくする会 「子ども環境創作狂言「芹川」」  
<まじめで笑いを誘う狂言の世界を現代の人、川づくりに見事に生かしたで賞>
- 石狩川流域 / [NPO法人水環境北海道緑化部](#) 「石狩川流域300万本植樹運動」  
<地元からモンゴルまで広がる北の森づくりのロマンがつむぎだされるで賞>
- 大淀川 / どんぐり1000年の森をつくる会 「どんぐり1000年の森をつくる会」  
<ドンぐり1000年の森づくり・山づくりはきつときと偉大な川づくりをもたらすで賞>
- 岩木川 / [FMアップルウェーブ岩木川チャレンジ村実行委員会](#) 「岩木川チャレンジ村！！」  
<達人の知恵と若者の表現の発信は地域の内なる力を育むで賞>

神田川 / [21世紀・夢プロジェクト](#)

「神田川菜の花物語（第一章）」

< 菜の花にふちどられた神田川は人々のところをうばう情景となるで賞 >

---

### 『広松伝』賞

神田川 / [21世紀・夢プロジェクト](#)

「神田川菜の花物語（第一章）」

< 菜の花にふちどられた神田川は人々のところをうばう情景となるで賞 >

---

第6回「川の日」ワークショップの記録集 2003年12月頃刊行予定（一部1,000円 税込）

近畿水の塾事務局とりまとめのうえ、一括申込みいたします。

申込先 近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail:[mizunojuku@yahoo.co.jp](mailto:mizunojuku@yahoo.co.jp)）まで

詳細報告：「川の日」ワークショップ ホームページ

<http://homepage2.nifty.com/icas/kawanohi/>

[第6回「川の日」ワークショップ結果速報より転載]

#### 【事務局より】

夏本番！！涼を求めて、海や川との距離がぐーんと近くなりました。

これまで川に出かけたり眺めてはいても、直接川に入る機会はそうそうありませんでしたが、8月に入ってから先日のEボートレースに始まって、旅先での釧路川源流下りなど、今夏は水の匂いや水温をかなり間近に感じている事務局です。

しかし、冷たそうな水面を前にして、暑い救命胴衣をつけるのはどうも苦手・・・  
あー、カップに手をとられて水の中に吸い込まれそう・・・

日本の夏はまだまだこれから。水の事故も頻発しています。

背中に、お腹にいっぱい汗しながら、もっともっと水に近づきたいものですね。